

「父に生きた人！！子から父へ！！」 ～土台と芯のある生き方～

出エジプト32:1-35

■ イソップ童話のよくばりな犬の動画

肉をくわえたイヌが、はしを渡っている途中にふと下を見ると、川の中にも肉をくわえたイヌがいました。イヌはそれを見て思いました。(あいつの肉の方が大きそうだ)
イヌはくわえてたまりません。(そうだ、あいつをおどかして、あの肉を取ってやろう)
そこで、イヌは川の中のイヌに向かって思いつきほえました。
そのとたん、くわえていた肉はポチャンと川の中に落ちてしまいました。川の中には、がっかりしたイヌの顔がうつっています。
さっきの川の中のイヌは、水にうつった自分の顔だったのです。同じものを持っていても、人が持っているものの方が良く見え、また、よくばると結局、損をすると言うお話です。
私達の心の中にもこのような心はありませんか？

■ アロン：頑なな民

出エジプト 32:21-24 モーセはアロンに言った。「この民はあなたに何をしましたか。あなたが彼らにこんな大きな罪を犯させたのは。」アロンは言った。「わが主よ。どうか怒りを燃やさないでください。あなた自身、民の悪いのを知っているでしょう。彼らは私に言いました。『私たちに先立って行く神を、造ってくれ。私たちをエジプトの地から連れ上ったあのモーセという者が、どうなったのか、私たちにはわからないから。』それで、私は彼らに、『だれでも、金を持っている者は私のために、それを取りはずせ。』と言いました。彼らはそれを私に渡したので、私がこれを火に投げ入れたところ、この子牛が出て来たのです。」

アロンはモーセのいない40日間で自分の任せれていたイスラエルの民を正しく導くという責任と役割があったが、日に日に増す民からのつぶやきや、文句を聞くのが嫌になり、任されていた責任を放棄してしまい『だれでも、金を持っている者は私のために、それを取りはずせ。』と言いました。彼らはそれを私に渡したので、私がこれを火に投げ入れたところ、この子牛が出て来たのです。」というとんでもない無責任な言葉を発してしまったのです。

みなさんもこのアロンのような諦めからくる責任や役割を放棄していませんか

■ テスト

『【主】はモーセに仰せられた。「さあ、すぐ降りて行け。あなたがエジプトの地から連れ上ったあなたの民は、墮落してしまっただけ。彼らは早くも、わたしが彼らに命じた道からはずれ、自分たちのために鋳物の子牛を造り、それを伏し拝み、それにいけにえをささげ、『イスラエルよ。これがあなたをエジプトの地から連れ上ったあなたの神だ』とやっている。』」出エジプト 32:7-8

モーセはここで神様からのテストを受けています。ここに書いてあるあなたの民は、神様からモーセに対して言われています。モーセが今までイスラエルの民の導いてきました。人は労苦したら自分のものにしてしまいます。でもモーセは自分のものにしませんでした。

『しかしモーセは、彼の神、【主】に嘆願して言った。「【主】よ。あなたが偉大な力と力強い御手をもって、エジプトの地から連れ出されたご自分の民に向かって、どうして、あなたは御怒りを燃やされるのですか。」出エジプト 32:11

モーセは畏に陥らなかつた、この時の燃える芝の時のモーセの姿からは想像できないほど変わりました。

■ アロン：頑なな民

出エジプト 32:21 モーセはアロンに言った。「この民はあなたに何をしましたか。あなたが彼らにこんな大きな罪を犯させたのは。」

32:22 アロンは言った。「わが主よ。どうか怒りを燃やさないでください。あなた自身、民の悪いのを知っているでしょう。

32:23 彼らは私に言いました。『私たちに先立って行く神を、造ってくれ。私たちをエジプトの地から連れ上ったあのモーセという者が、どうなったのか、私たちにはわからないから。』

32:24 それで、私は彼らに、『だれでも、金を持っている者は私のために、それを取りはずせ。』と言いました。彼らはそれを私に渡したので、私がこれを火に投げ入れたところ、この子牛が出て来たのです。」

32:25 モーセは、民が乱れており、アロンが彼らをほうっておいたので、敵の物笑いとなつて出エジプト 32:21 モーセはアロンに言った。「この民はあなたに何をしましたか。あなたが彼らにこんな大きな罪を犯させたのは。」

◎信頼関係

神様が求めているのは私達との関係です。なぜ私たちは試練に会うのか？それは私達がこのテストを合格するためだからです。

◎任せられる喜び

そして、このテストに合格したら、私達の神様は任すことができるのです。この任せられる喜びを得なくてははいけません。

◎成長

私達は手探りで成長していきます。私達は気をつけなければいけないことは、信頼関係がないのに任せることはできないということです。だからテストに合格する必要があります。もし私達がオーナーなら、感情的な人に仕事を任せますか？

◎自分を管理できる人

自分を自分で管理しなくてははいけません。それはコントロールです。私達は人をコントロールしたいという気持ちがありますが、コントロールするのは、自分自身だということです。そして、自分自身をコントロールできないと信頼関係も築けませんし、仕事を任せられることもありません。神様はいつでも任せる準備はされています。では、どうやったらコントロールできるようになるのか？それは、決して諦めず、祈ること。そして、モーセのように神様と一緒に歩むこと。そこでだれになんとわれようが文句も言わずに冷静に見て自分の任されたことをやってみる事です。

■ 正しいリーダーの役割

私達は裁き目線があります。アロンもモーセも同じよう失敗してきました。しかし、モーセが成長して選んで選んだ姿は、とりなして祈ることでした。私達は今まで人を裁いてきたかもしれません。自分の思い通りにならないとその事を否定してきたかもしれません。あたかも自分が神になって人を裁き自分が悪くないと言ってきたかもしれません。しかし、モーセはこういった人生をやめ、どんな時も祈りに帰るものとなったのです。これが正しいリーダーの役割だということをモーセは知ったのです。

■ さいごに

私達は目の前に問題があると感情的になって道を踏み外してしまいます。うまく行かないと自分でやっつけてしまおうとします。うまく行かないこと裁いて人のせいにしてしまいます。

でも、イエス様の十字架はどんなに裏切られて揺り動かされることはありませんでした。

今私達の心の中につぶやき、諦めがないでしょうか？自分の思い通りしたという思いがないでしょうか？イエス様は私達のこのような思いの為に全部捨てて十字架に掛かれたのです。だからこそ、私達は贖われたものとして責任を持ちたいのです。

『今、もし、彼らの罪をお赦しくださるものなら——。しかし、もしも、かないませんなら、どうか、あなたがお書きになったあなたの書物から、私の名を消し去ってください。』とこのようにモーセも責任者としての祈りをしました。

だから私達もこのモーセのように決して自分ものにする事なく、神様から与えられた役割を正しく冷静に判断して諦めず、責任を果たしていきましょう。

自分自身の生き様を通して、イエス様の愛に応えるものに変えられて行きましょう。

(要約者:岡本 英樹)

(2024年8月4日)